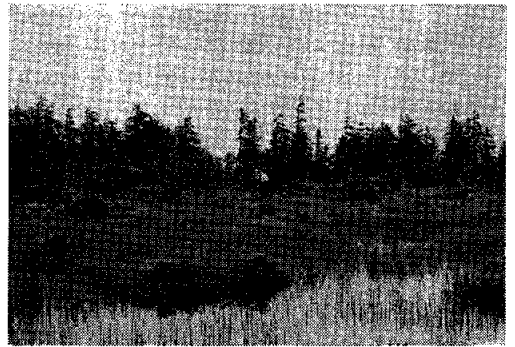


## 沼の原と沼の平の湿原

鮫 島 悼 一 郎

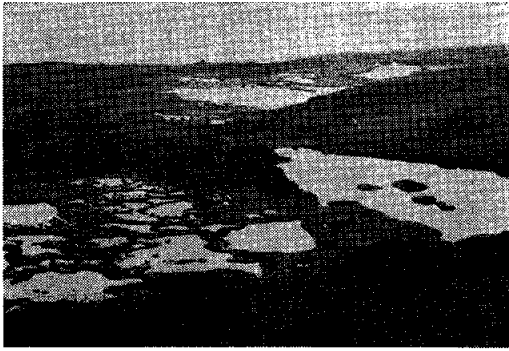
沼の原は石狩川と十勝川を分ける稜線上にあつて、東には石狩岳、音更山へ連なり、西には五色ヶ原、忠別岳、あるいはトムラウシ山へと連なっている位置にある。海拔高はおよそ一四〇〇メートルの台地状になつていて大小百数十もの湖沼と、それととりまく湿原とによつて構成されている。火山性のこの台地の南端は、急峻な地形を示しておりながらよく湿原が発達してい



アカエゾマツに囲まれた沼の原湿原

るのは、その不透水層をもっているものと考えられ、雨水によつて水位の変動は少ない。ただ、西端部に位置している大沼は時期により水位の変動が大きく、湿原性の植物群落の発達は貧弱で、乾期には岩礫、あるいは砂質部分が露出をする。

このようなことから沼の原湿原は、景観上三つに区別され、沼の原山に近い部分は沼の原台地として、ダケカンバ林とこれにつづくチシマザサ、ハイマツによつて代表される部分である。つぎはこれより高度は低い部分で、沼の原の主体をなしており、アカエゾマツ林によつて囲まれた湿原と湖沼群である。(写真1)・そしてこれに加



当麻乗越より見る沼の平湿原

えて大沼があるわけであるが。湖沼と湿原に代表される部分が面積も大きく、沼の原の特長となっている。

火山灰の露見する水深一メートルほどの沼ではチシマミクリの群生しているものがあり、水深の浅い沼ではミヤマオヒルムシロが生育している。さらに浅い池沼ではミツガシワ、クロヌマハリイ、エゾホソイなどが群落を構成し、池沼ごとにそれぞれの異なった景観をみせるのも興味がもたれる。

池沼のあいだにはミズゴケの仲間が生育しており、スゲやイなどともにマット状の湿原となっている。主な植物をあげると

つぎのようなものがある。

タカネスイバ、ナガバノモウセンゴケ、モウセンゴケ、ウメバチソウ、マルバシモツケ、チングルマ、ガンコウラン、チシマニンジン、ヒメシヤクナゲ、ツルコケモモ、ホロムイリンドウ、ミヤマリンドウ、タカネニガナ、ホロムイソウ、ヤチスゲ、ミダケスゲ、オオカサスゲ、ワダスゲ、ミカヅキグサ、ミネハリイ、シヨウジョウバカマ、ミヤマバイケイソウ、エゾカンゾウ、ヤチギボシ、ホソバノチドリなどがあげられる。

このようにここに生育している植物は、美唄や幌向あるいは東野幌などの泥炭地と共通の植物も多く、この湿原は中層、あるいは高層湿原とみることができ。

沼の平は大雪山北部の永山岳の裾に形成されている湿原で、生育している植物は沼の原とよく似ており(写真2)、海拔高も同じである。しかしこの湿原をとりまくのはダケカンバ林やハイマツであって、また、近くに山岳があり異なった景観を示している。

いずれも北海道の高山帯における湿原としては、まことに貴重な存在で類を他にみない。

(林業試験場北海道支場)